

新規就農融資が好調

日本政策
金融公庫

若者向け、1/3が九州

新たに農業を始める若者向けの融資「青年等就農資金」が九州で順調に件数を伸ばしている。日本政策金融公庫が2014年度、新たにスタートした融資制度で、昨年12月末時点で全国51件の融資を実行。うち九州が約3分の1の17件を占めており、今後も順調に実績を伸ばしそうだ。

青年等就農資金は、原則として18〜44歳の新規就農者を対象に、新規就農に要

する施設や機械購入資金、長期運転資金を貸し付ける制度。利用者は無利子、無担保で最高3700万円まで借りられる。

融資を受けた新規就農者の多くが、資金を園芸用ハウスや農機具の購入費用に充てている。佐賀県内では1月26日現在で11人が融資を受け、チンゲン菜やキュウリなどの栽培に取り組んでいる。同公庫佐賀支店は「Uターン就農の

呼び水になるなど地域活性化にも貢献している。新たな融資の相談も多く、今後

も順調に推移しそうだ」と話す。

1月中旬、福岡県内の融資第1号になった黒沼清寿さん(33)は福岡市出身。12年に東京の民間企業を脱サラ。農業大学校や農家で研修を受け昨年、福岡県大木町でアスパラガス

の生産を始めた。今回、軽トラック購入費や長期運転資金として610万円を借りた黒沼さんは「新規就農者にとって非常にありがたい制度。将来は作付面積を増やし、法人化も目指したい」と話している。

(下村ゆかり)